

ゆぎの里だより

特定非営利活動法人ゆぎの里 コロナ禍での総会開催

NPO ゆぎの里総会を2月28日(日)に開きました。世界中がコロナ禍に襲われ、その対応に追われる中、我々も逃れることなく参加対象者を理事に限定し15名の参加で議論しました。

特徴は、新事務所に引っ越しして新たにデイサービス事業を開始したこと、今まで牽引役であった訪問介護事業が大きく落ち込み、事業所の決算も初めてマイナス決算であったことです。新年度1月もマイナス決算であったことから、対策を持たない限り一決算が継続するという現状からどのように脱却し、正常な運営状態にするかが議論の中心でした。

落ち込んだ利用者さんの回復と、経費節減の議論から、具体的に支出で一番大きい家賃約30万円/月、2番目のリコーへのリース料金など約25万円/月の見直し・交渉でした。



また、借入金が2000万円を超えていることについて、丁寧な説明と返済計画を明示してほしい旨、文章でのご指摘がありました。



新事務所建設資金については、2019年9月の臨時総会で承認された通り、役員等8名から1100万円(5年後返済)を借入ておりま

す。返済計画についても承認され、地域密着型通所介護の定員増にて3年目には大きく黒字に転換し、5年目には完済という計画です。

それに加えて独立行政法人福祉医療機構から、新型コロナウイルス感染症特別運転資金貸付事業として2020年5月に600万円(5年間無利息、以後10年返済)を借りました。この時は第一回目の非常事態宣言が発令された時であり、理事会による持ち回り議題として決済されました。2020年12月に役員5名より350万円(単年度返済)を運転資金として借入れています。返済計画については5年後の法人事業展開にかかっていますが、英知を結集して乗り越えていきたいと思ひます。

その後の経過を報告しますと、大家さんは「困難な時はお互いが協力しましょう」と嬉しい回答、リコー関連会社のリース会社は利子負担なしで6ヶ月支払い繰り延べ、リコーもコピー単価見直しの約束を得て、感謝の限りです。

この危機は必ず乗り越えられます。一日も早く正常な運営体になるよう新体制になった理事会・職員一同一層の努力を重ねる思いを新たに、会員の皆さんにもご支援をよろしくお願いいたします。

理事長 上田 紘治

